

幸せを見つける素敵な日

高崎市立箕郷中学校

二年 石井 結珠

「僕は知っている 奇跡は死んでいる 努力も孤独も報われないことがある だけどね それでもね 今日まで歩いてきた日々を人は呼ぶ それがね、軌跡だと」「ああなんて素敵な日だ 幸せと思える今日も夢敗れ挫ける今日も ああ 諦めず足宛いている 狭い広い世界で奇跡を唄う」

これは、Mrs.GreenApple の『僕のこと』という曲の一部だ。私はこの曲を聴くたび、自分が体験したことを強く思い出す。

小学校6年生のとき、私は小学2年生からずっと受け続けているピアノのコンクールに参加した。年に一度行われるこのコンクールのために毎日毎日ピアノの練習をしていた。コンクールは、私の中で大切なイベントだった。だが、当時の私には気がかりがあった。

次もコンクールを受けたいけれど、来年は中学生。勉強や他の活動などで忙しくなりそうだし、新たなことにもいろいろ挑戦したいと考えると、ピアノのコンクールと中学校生活を両立できそうになかった。生半かな気持ちでコンクールを受け、中途半端な結果になることが何よりも嫌だった。そこで私は決めた。ピアノのコンクールは今年で最後にする。だからこそ今年是全国大会に行く、と。

それから私は、学校が終わると急いで家へ帰り、ほとんどの時間をピアノの練習に費やした。平日も、休日も、食事やお風呂以外の時間はずっとピアノを弾いていた。音大の先生に習いに東京まで行くこともあり、とにかく一生懸命練習した。

そして迎えた本番の日。会場の空気はとてもピリピリしていて、緊張感が張りつめていた。その空気感に影響されたのか、いざステージに上がると、手足が震えて最初の一音を出すのが怖くなった。「大丈夫。あんなに頑張ったんだから。絶対素敵な演奏ができる。」そう考えると心が軽くなり、あまり緊張せずに伸び伸び

と弾けた。今までで一番納得のいく演奏で、ピアノの先生も「すごく良かったよ。今まで聞いた中で1番結珠ちゃんらしさが出ていて素敵だった。全国に行けるといいよね。」と言ってくれて結果が楽しみだった。

しばらく待っていると結果が出た。期待と不安が入り交じった気持ちで掲示板に貼られた結果を見る。優秀賞。全国大会に行ける一步手前の賞だった。私の点数は、全国大会の点数まであと『0・1点』足りなかった。悔しくてたまらなかった。今までの努力は何だったんだ？全部無駄だったの？今までしてきたこと全てが馬鹿馬鹿しくなった。もっと頑張らなきゃダメだったと思うても、もう努力の仕方が分からなかった。やれることはやってきたから。心が痛く苦しくなる。頑張ればきっと報われる、そう信じてきたけどそんなの嘘だ。現実の厳しさを知り、悲しくて涙が溢れた。ピアノなんか辞めてしまいたい、そう思った。

そんな日々を過ごしていたとき、『僕のこと』に出会った。その曲はまるで、ここまで頑張ってきたことが素敵で、やってきたことは無駄ではないんだよとい

うメッセージが込められているようで、私に前へ進む勇気をくれた。きっとこの努力の過程に意味があったはずだ。良い結果が出たらもちろん嬉しいけれど、ピアノのコンクールを通して学んだことは、未来の私の力になる。そう考えると、報われない努力も悪くはないなと思えた。

私はきっと、努力の先にあるものが結果であるとかかり考えていたから、「報われない」と感じていたのかもしれない。結果の出ない努力に意味はないと思っていた。でも実は、「報われなかった」経験が、人生を色づけてくれる。頑張ってきた日々が新たに自分を変化させ、成長させてくれる。そんな日々幸せを感じるのだと思う。

今の私が作られた軌跡には、無数の努力が存在している気がする。皆さんも同じ。そんな努力の軌跡が自信につながって一人一人を輝かせている。今、自分が幸せなのか、ぼろぼろに傷ついているのか、どんな風でも全部自分だし、それを受け入れた上で、今日が素敵な日だなと思える。そう思って私は生きていきたい。